

第 66 回 コンパス薬局瀬谷 スキルアップ勉強会

2017. 1. 19 水谷

『アコファイド錠 100mg』

ゼリア新薬 小林様

出席者：佐藤、小西、川原、佐藤、阿部、伊藤、水谷

機能性ディスペプシア (FD) の病態は何らかの原因でストレスに対する過剰応答性を獲得した患者が、上部消化管生理機能異常 (胃運動機能異常、内臓知覚過敏) により直接的に症状をおこし、その過程を様々な因子が修飾しているという仮説が考えられる。

特に、胃運動機能異常については「胃適応性弛緩障害」と「胃排出遅延」に上腹部症状との関連が報告されている。

アコファイドはこれらの胃運動機能異常を有意に改善した。

【効能・効果】

機能性ディスペプシアにおける食後膨満感，上腹部膨満感，早期満腹感

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

1. 機能性ディスペプシアにおける心窩部の疼痛や灼熱感に対する有効性は確認されていない。
2. 上部消化管内視鏡検査等により，胃癌等の悪性疾患を含む器質的疾患を除外すること。
・1～2年以内の内視鏡、バリウム検査が必要である。

【用法・用量】

通常，成人にはアコチアミド塩酸塩水和物として1回100mgを1日3回，食前に経口投与する。

【使用上の注意】

本剤はアセチルコリンエステラーゼ阻害剤であり，アセチルコリンの作用を増強するので，この点に留意して使用すること。

【副作用】

主な副作用は下痢 (2.1%)，便秘 (1.6%)，悪心 (0.8%)，嘔吐 (0.5%) であった。

【特徴】

・食事の影響を受ける。

空腹時、食前又は食後に経口投与したとき、 C_{max} は食前投与で最も高く、空腹時投与に比べ 62.7%上昇した。また、食後投与の C_{max} は食前投与の 59.6%であった。 AUC_{last} は、食後投与で最も低く、空腹時及び食前投与に比べそれぞれ 76.8%及び 80.0%に減少した。

【質疑応答】

・使用が期待される疾病はあるか。

→PPI 抵抗性 GERD 患者。

GERD 治療患者のおよそ半数は FD を合併している。

PPI 抵抗性 GERD 患者を対象にアコファイドを追加投与した結果、胃もたれの改善率は 41%であった。